エブリイ

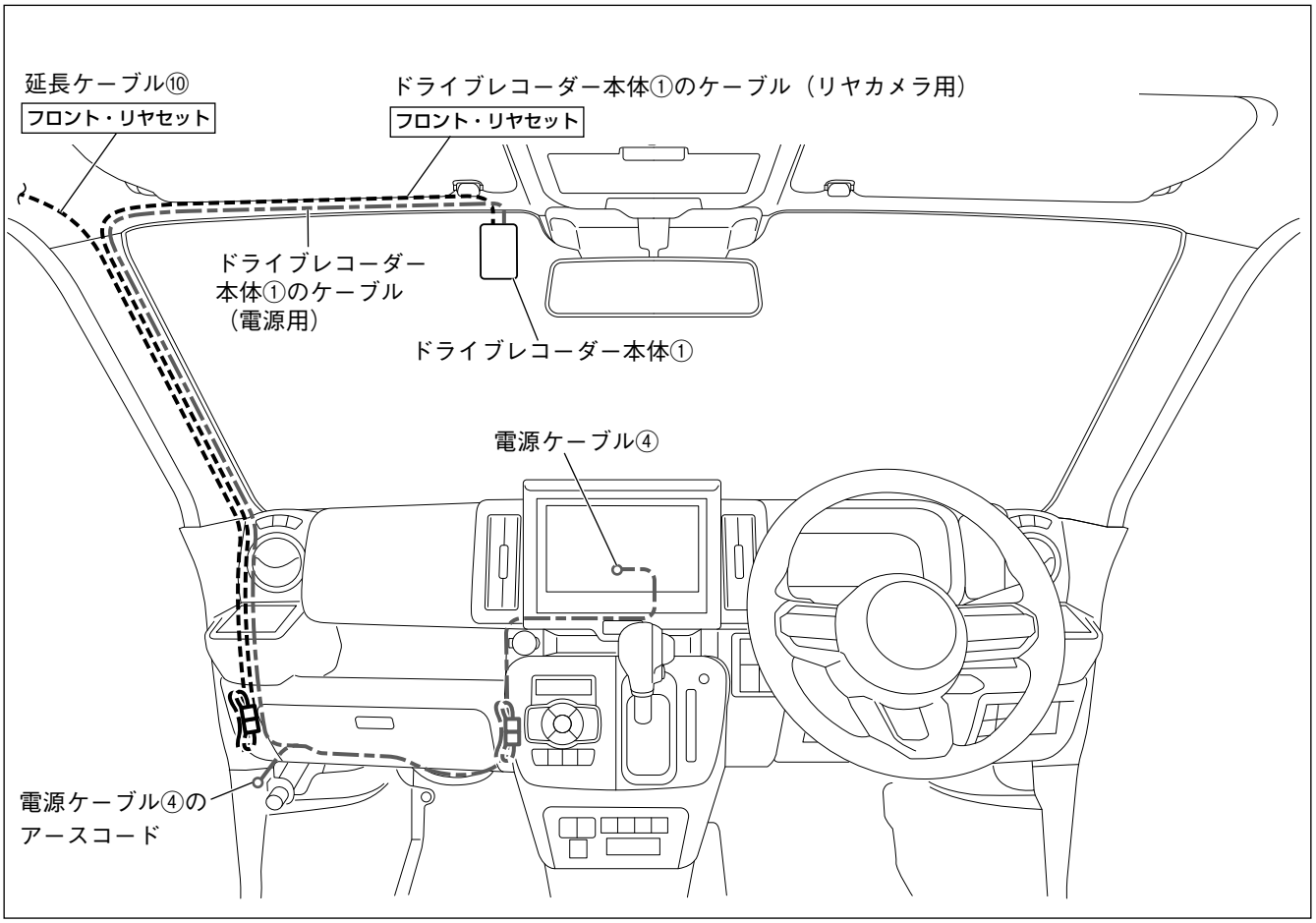
車種別取付要領

共通編の「共通取付要領」も合わせて参照ください。

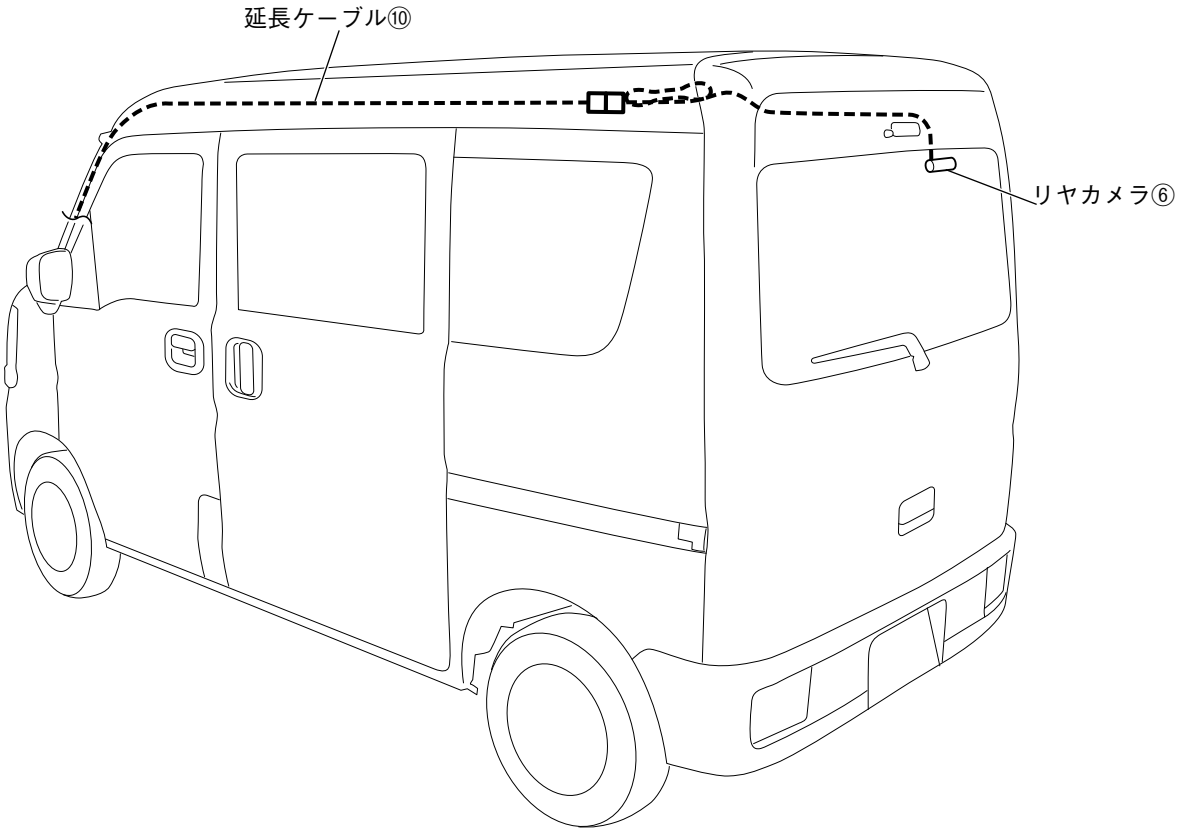
アドバイス

本説明書は「フロント・リヤセット」、「フロントのみ」の２つの製品の取付方法について記載しています。タイトルや本文に記載しているコメントを参考にして、それぞれの製品の取り付けを行ってください。なお、「フロント・リヤセット」、「フロントのみ」の記載がない項目についてはいずれの仕様も対象です。

■ 取付概要図



フロント・リヤセット



■ 車両部品の取り外し

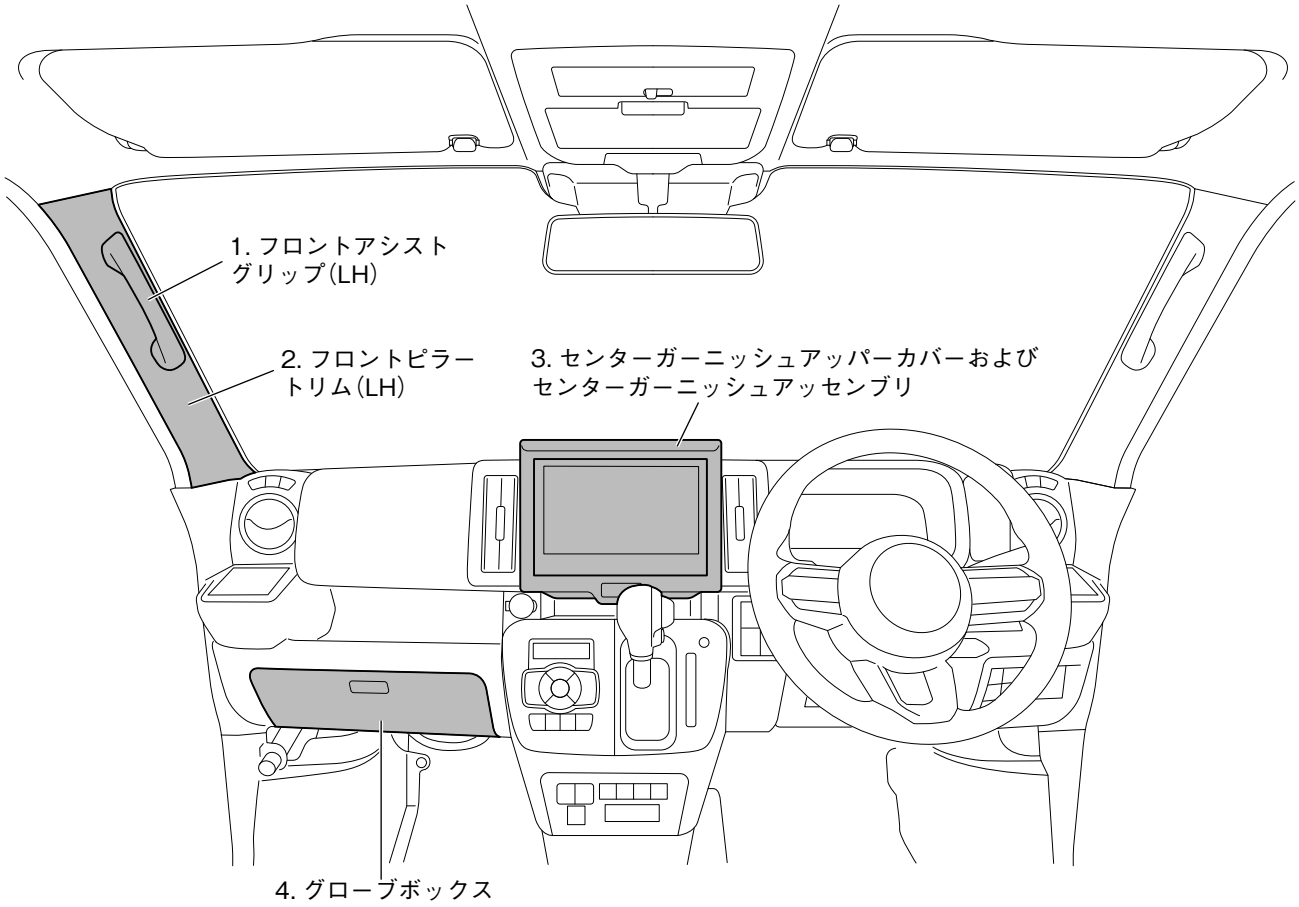
図中の番号順に車両部品を取り外します。

注 記

内装部品を傷付けないよう、養生テープなどで保護をしてから部品を取り外してください。

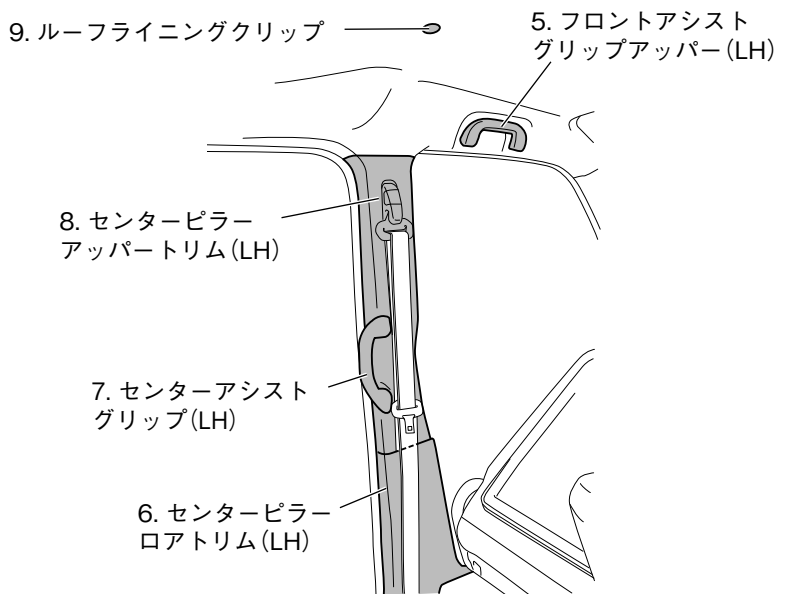
アドバイス

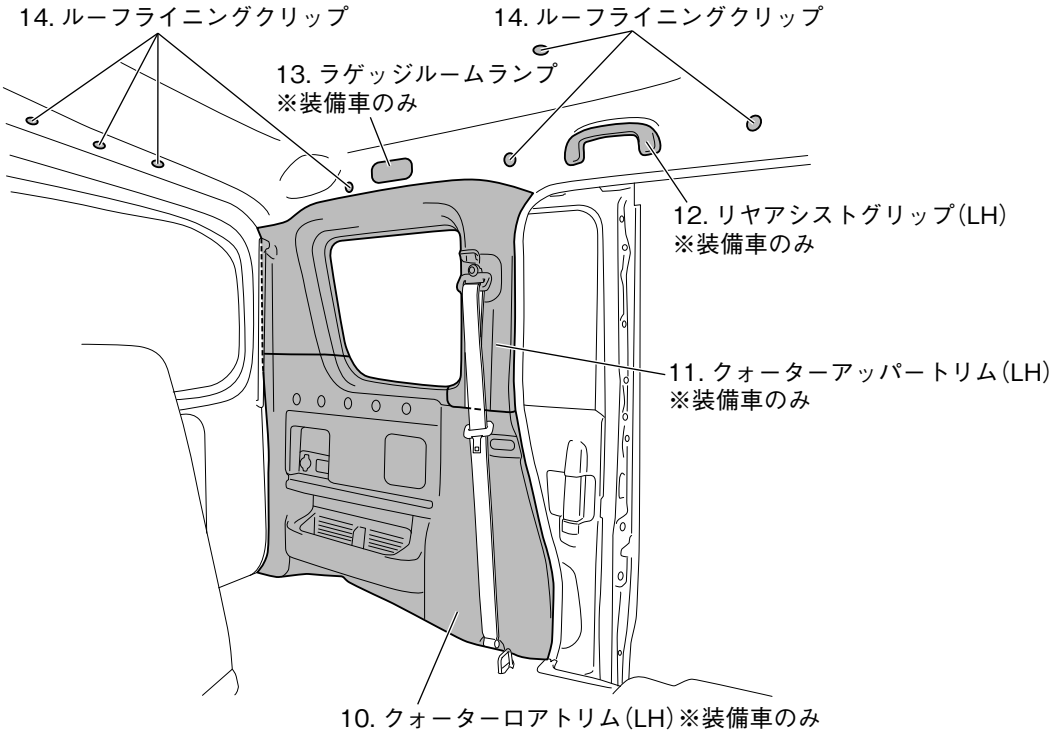
車両部品の取り外し方法については、ワゴンタイプ車を代表として記載しています。バンタイプ車も同様に行ってください。

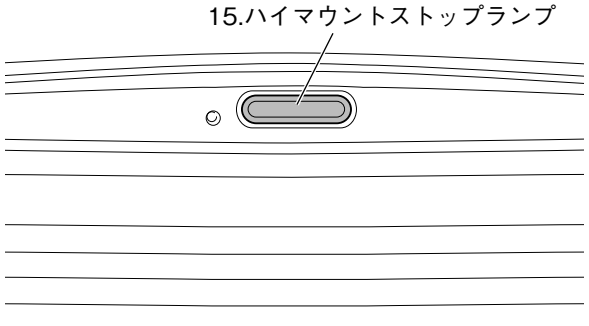


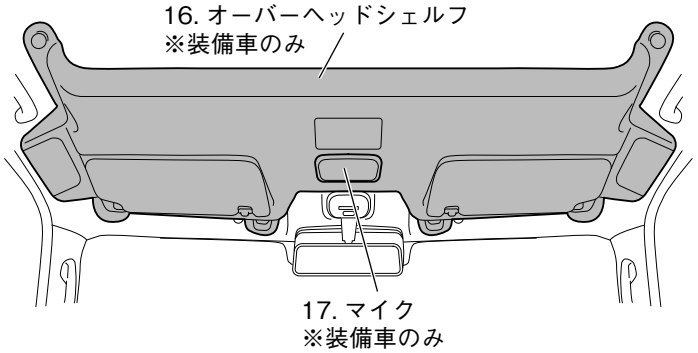
アドバイス

「フロント・リヤセット」装着時は、以下の車両部品も取り外してください。







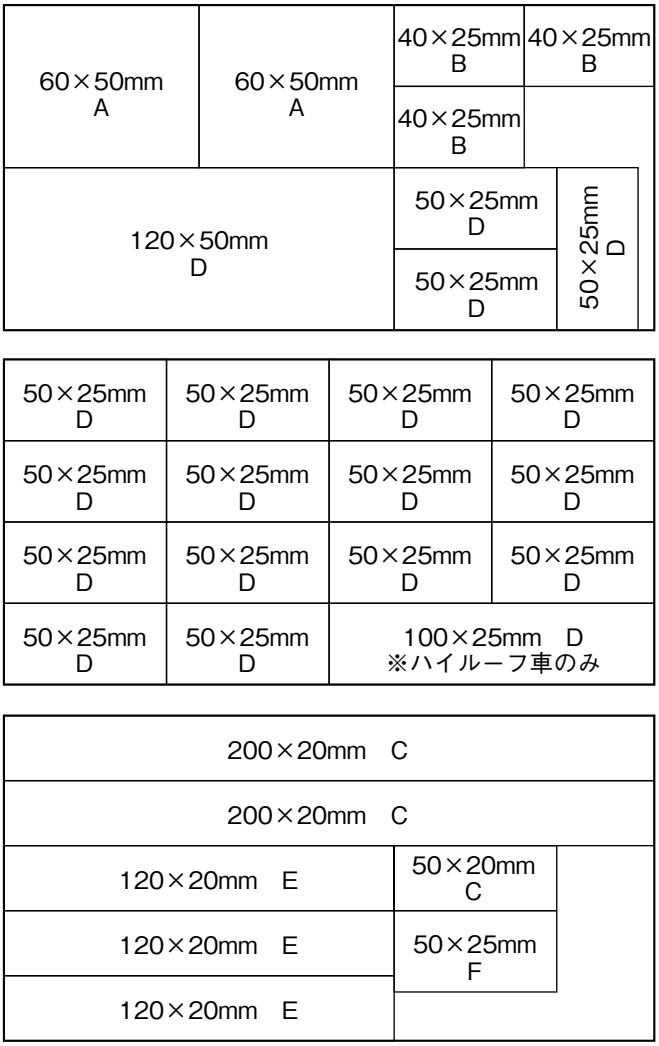


■ 取付前の準備

クッションテープの準備

●フロント・リヤセットの場合

クッションテープ(200×100mm)⑫

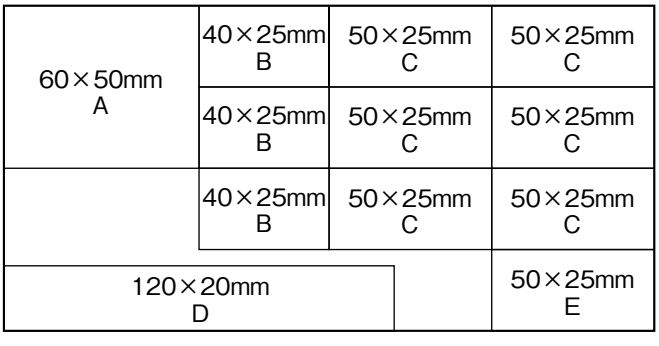


クッションテープ⑫を左図のようにカットします。

A：コネクター接続部巻き付け用
B：ドライブレコーダー本体①のケーブル巻き付け用
C：リヤカメラ⑥のケーブル巻き付け用
D：ケーブル固定用
E：余長束ね用
F：アースコード固定用

●フロントのみの場合

クッションテープ(200×100mm)⑫



クッションテープ⑫を左図のようにカットします。

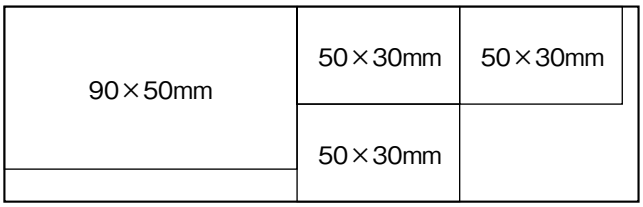
A：コネクター接続部巻き付け用
B：ドライブレコーダー本体①のケーブル巻き付け用
C：ケーブル固定用
D：余長束ね用
E：アースコード固定用

保護シートの準備

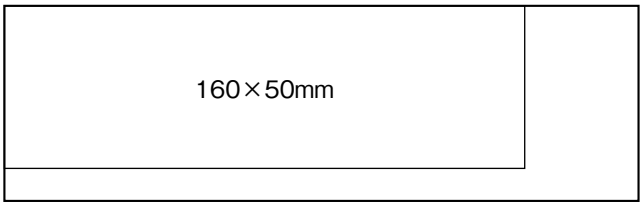
●フロント・リヤセットの場合

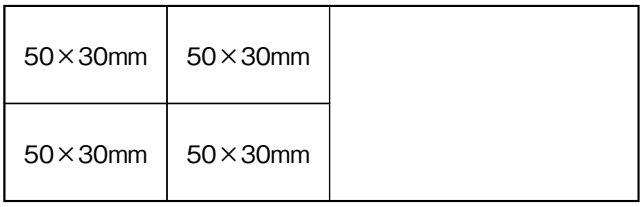
保護シート(195×60mm)⑬

※ハイルーフ車の場合



※標準ルーフ車の場合





保護シート⑬を左図のようにカットします。

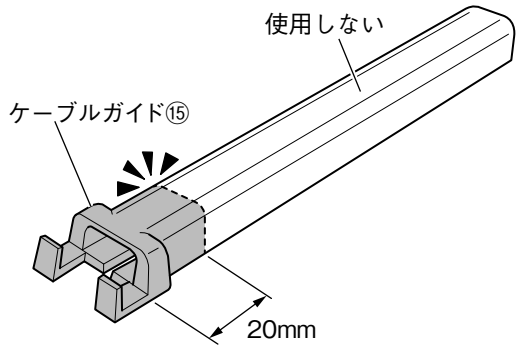
●フロントのみの場合

保護シート(195×60mm)⑬



保護シート⑬を左図のようにカットします。

ケーブルガイドの加工

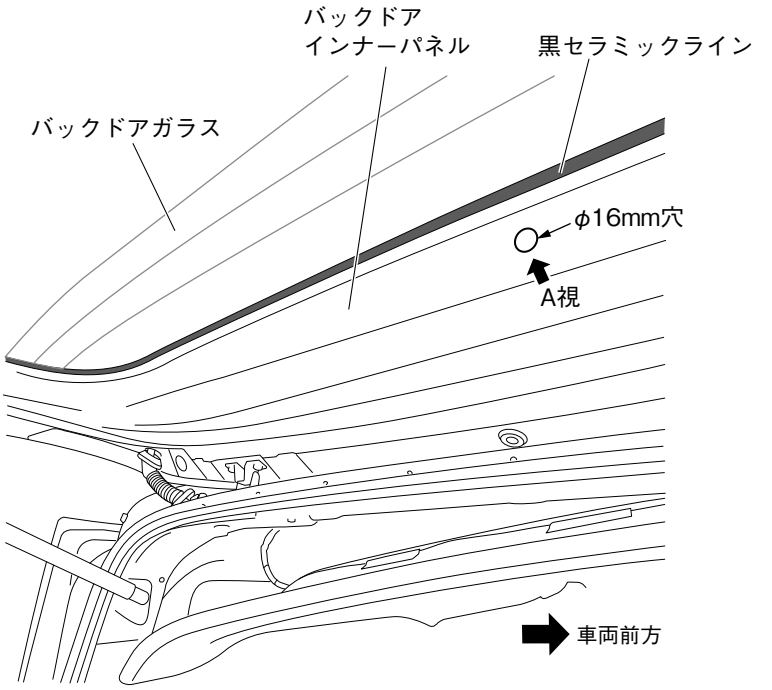


ケーブルガイド⑮を左図のようにカットします。

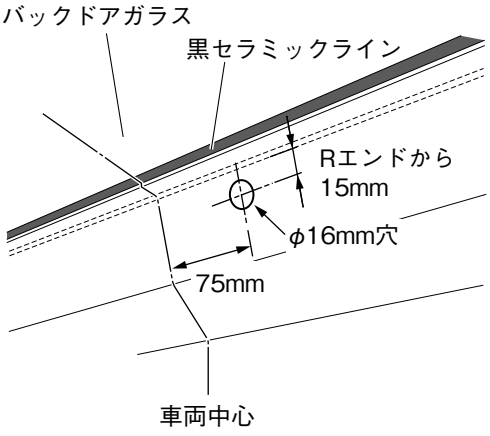
⚠注意
カット加工時は、耐切創手袋を着用してください。

バックドアインナーパネルの穴開け加工　フロント・リヤセット

<バックドア上部>



A視図



1. バックドアインナーパネルの図示位置にケーブル通し用の穴（φ16mm）を開けます。

⚠警告

穴開けの際は切削粉が飛散するため、必ず保護メガネを着用してください。

⚠注意

電動ドリル使用時は、巻き込み防止のため手袋を着用しないでください。

注 記

- 車両配線やリヤウォッシャーホースなどを傷付けないよう、配線やホースを一時的にずらしたり、抜き出したりしてください。
- 切削粉がバックドアハーネスグロメットや、車室内などに入り込まないように養生をしてください。
- 穴貫通時にパネルの切れ端がハイマウントストップランプ取付穴から飛び出すおそれがあります。テープ等で一時的にハイマウントストップランプ取付穴を塞いだ状態で穴開けを行ってください。
- ホールソーの刃先端部から10mm以内の位置にストッパー（布テープ等）を巻いてください。
- ホールソーは穴開け面に対して垂直に当ててください。

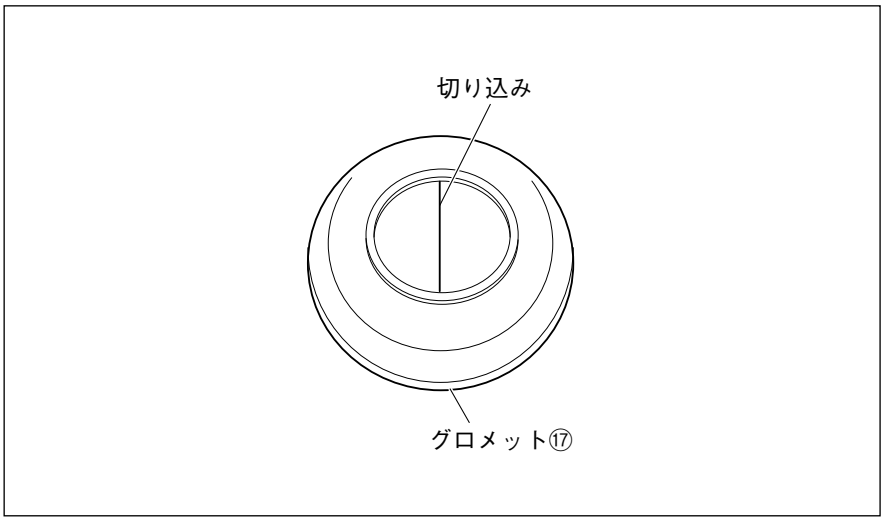
2. 穴開け加工部をヤスリでバリ取り処理します。

注 記

・ヤスリで穴を仕上げるときは、穴の周囲に保護用のテープ（布テープ）を貼り付け、ボデーに傷が付かないようにしてください。
また、ヤスリでバックドアハーネス等を傷付けないようにしてください。
・バックドアパネル内の切り粉や削りくずをマグネットハンドを使い取り除いてください。異音や錆の原因になります。

3. 穴開け加工部の切断面にタッチアップペイントを十分に塗り、しっかり乾燥させてください。

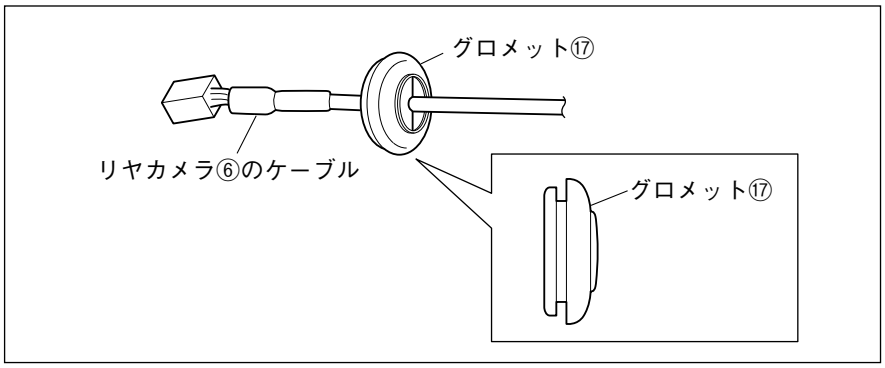
グロメットの加工　フロント・リヤセット



グロメット⑰に切り込み加工します。

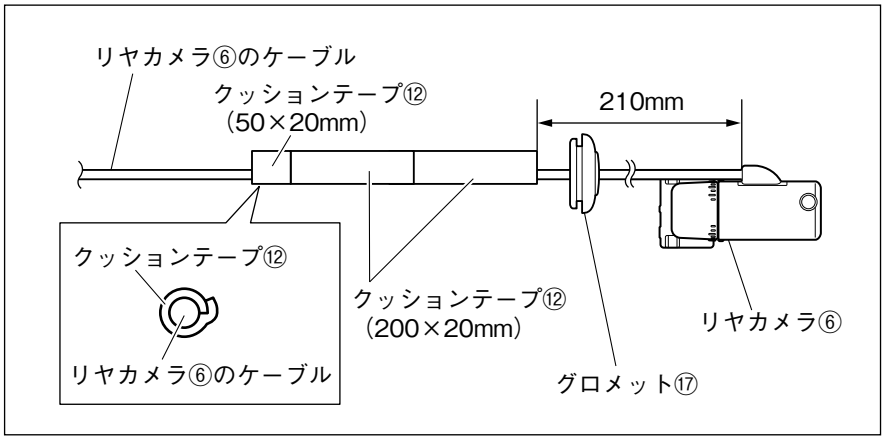
⚠注意
切り込み加工時は、耐切創手袋を着用してください。

リヤカメラのケーブルの準備　フロント・リヤセット



1. グロメット⑰にリヤカメラ⑥のケーブルを通します。

注 記
- **グロメット⑰は、図の向きで取り付けてください。**
- **リヤカメラ⑥のケーブルをグロメット⑰内に通す際は、破損防止のため無理に引っ張ったりしないでください。**

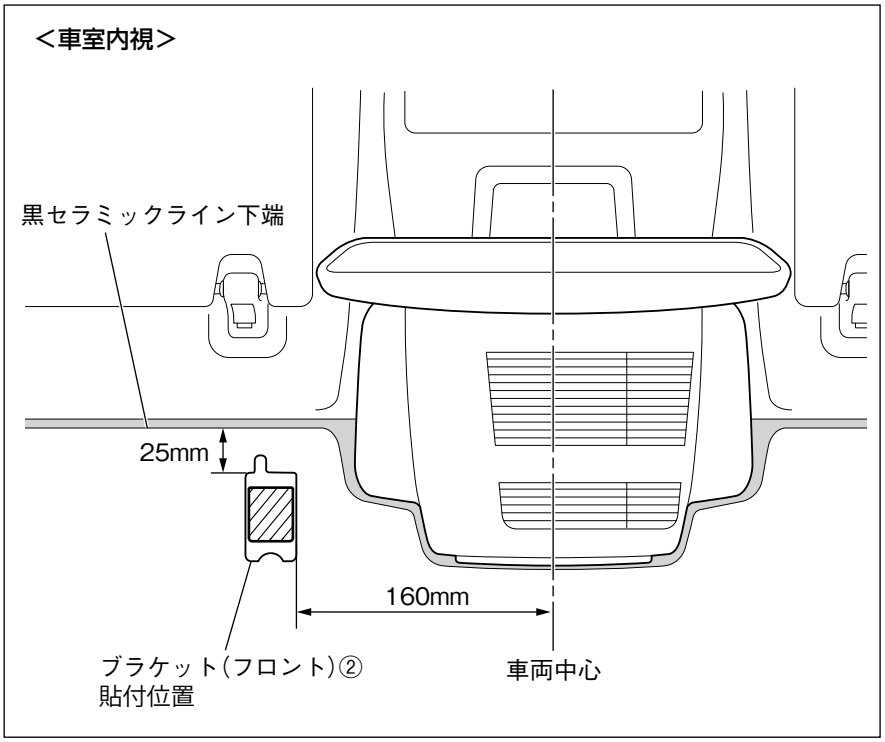


2. リヤカメラ⑥のケーブルの図示位置にクッションテープ⑫を貼り付けます。

注 記
クッションテープ⑫の貼り付けは、グロメット⑰を左図位置まで移動してから行ってください。クッションテープ⑫を貼り付けた後グロメット⑰を移動すると、グロメット⑰が破損するおそれがあります。

■ ドライブレコーダー本体およびリヤカメラ貼付作業

ドライブレコーダー本体の貼り付けおよび角度調整



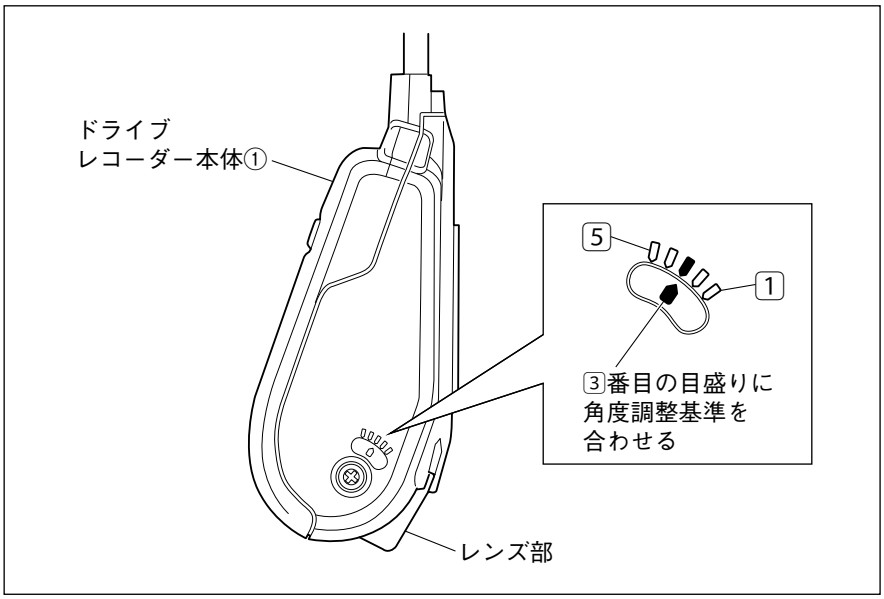
1. ブラケット（フロント）②をフロントガラス内側の左図位置に取り付けます。

注 記

- 取付面の汚れ等をクリーナー⑭できれいに拭き取ってください。汚れていると接着力が低下します。
- 接着面に触れたり、ブラケットを取り付け直したりしないでください。
- 気温が低い時（15℃以下）は、取付面をドライヤーなどで温めてから取付作業を行ってください。

アドバイス

ドライブレコーダー本体①、ブラケット（フロント）②の取り付けの詳細は、共通編の「ドライブレコーダー本体の貼り付けおよび角度調整」を参照してください。



2. ドライブレコーダー本体①のレンズ部の角度を左図位置に固定します。

注 記

- **カメラレンズ部の汚れや傷付き防止のため、カメラレンズ部を絶対に触らないでください。**
- **しっかりと固定され、がたつき等が無いことを確認してください。**

アドバイス

ドライブレコーダー本体①レンズ部の角度調整方法の詳細は、共通編の「ドライブレコーダー本体の貼り付けおよび角度調整」を参照してください。

3. カットしたケーブルガイド⑮をドライブレコーダー本体①に取り付けます。

アドバイス

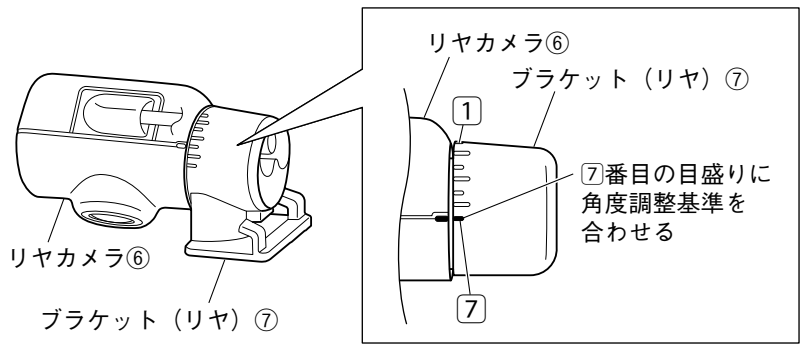
ケーブルガイド⑮の取り付けの詳細は、共通編の「ドライブレコーダー本体の貼り付けおよび角度調整」を参照してください。

4. ケーブルガイド⑮先端をルーフライニング内に挿し込みながら、ドライブレコーダー本体①をブラケット（フロント）②に取り付けます。
5. ドライブレコーダー本体①をネジ（M3 × 5.5mm）③で固定します。

アドバイス

ドライブレコーダー本体①のネジ固定の詳細は、共通編の「ドライブレコーダー本体の貼り付けおよび角度調整」を参照してください。

リヤカメラの角度調整および貼り付け　フロント・リヤセット



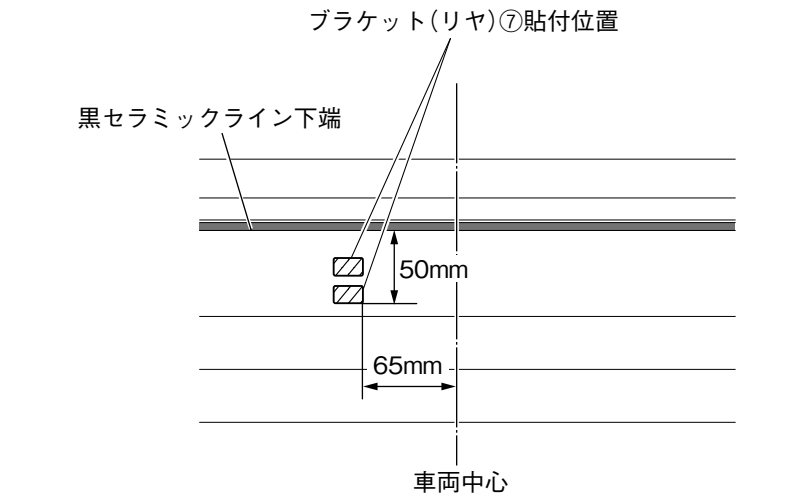
1. ブラケット（リヤ）⑦をリヤカメラ⑥に組み付け、左図位置に固定します。

注 記

- カメラレンズ部の汚れや傷付き防止のため、カメラレンズ部を絶対に触らないでください。
- しっかりと固定され、がたつき等が無いことを確認してください。

アドバイス

ブラケット（リヤ）⑦の角度調整の詳細は、共通編の「リヤカメラの角度調整および貼り付け」を参照してください。



2. ブラケット（リヤ）⑦をバックドアガラス内側の左図位置に取り付けます。

注 記

- 取付面の汚れ等をクリーナー⑭できれいに拭き取ってください。汚れていると接着力が低下します。
- 接着面に触れたり、ブラケットを取り付け直したりしないでください。
- 気温が低い時（15℃以下）は、取付面をドライヤーなどで温めてから取付作業を行ってください。

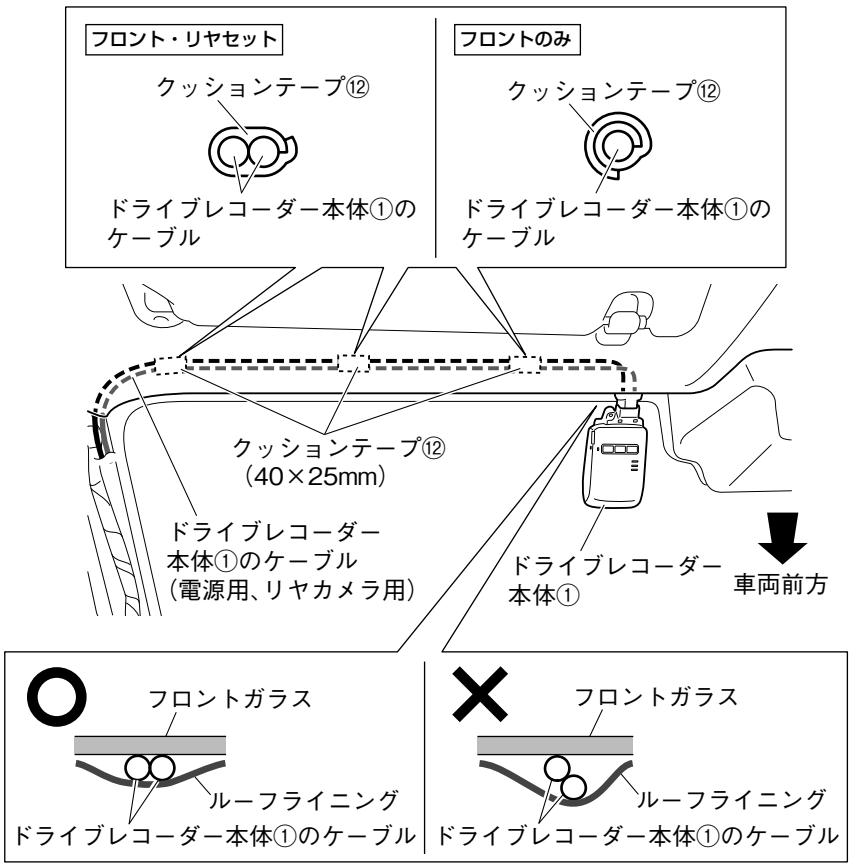
アドバイス

リヤカメラ⑥、ブラケット（リヤ）⑦の取り付けの詳細は、共通編の「リヤカメラの角度調整および貼り付け」を参照してください。

■ 配線作業

ドライブレコーダー本体のケーブル（電源用、リヤカメラ用）配線

<ルーフライニング部>



アドバイス

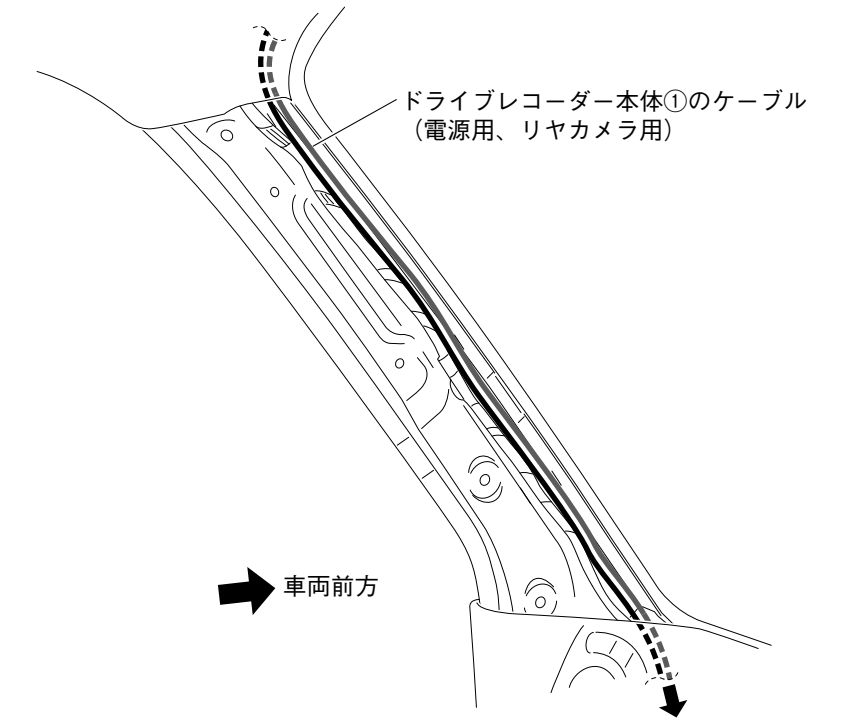
「フロントのみ」の場合は、ドライブレコーダー本体①のケーブル（リヤカメラ用）の配線作業はありません。

1. ドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用、リヤカメラ用）にクッションテープ⑫を巻き付けます。
2. ドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用、リヤカメラ用）をルーフライニング内に入れ込みながら、フロントピラー部へ配線します。

注 記

ルーフライニング引込部のドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用、リヤカメラ用）は、フロントガラスと並行になるようにしてください。

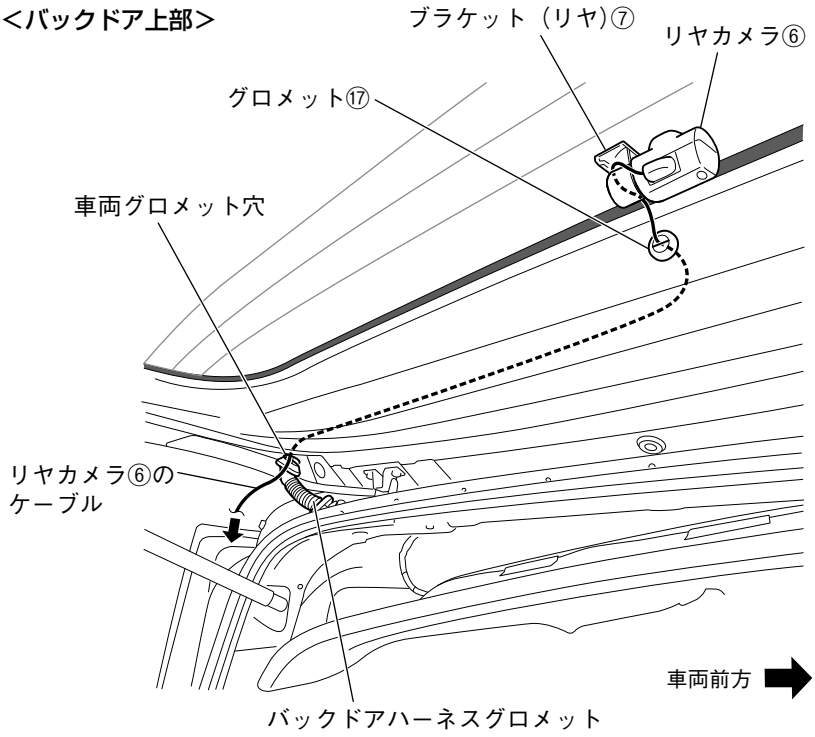
<左側フロントピラー部>



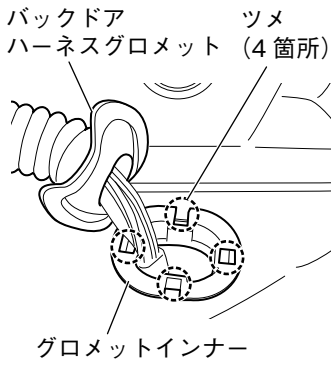
3. ドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用、リヤカメラ用）をフロントピラーとダッシュボードのすき間からグローブボックス取付部に配線します。

リヤカメラのケーブル配線　フロント・リヤセット

＜バックドア上部＞

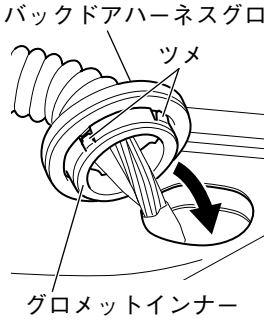


＜バックドアハーネスグロメット室内側の取り外し＞



1 グロメットインナーからバックドアハーネスグロメットを外してください。
2 ツメ（4箇所）のかん合を外し、グロメットインナーを車体から外してください。

＜バックドアハーネスグロメット室内側の復元＞



1 グロメットインナーをバックドアハーネスグロメットにはめてください。
2 バックドアハーネスグロメットを車体にはめ込んでください。
※ツメ（4箇所）を確実にかん合させてください。

1. バックドアハーネスグロメットのかん合部をバックドア側および室内側から外します。

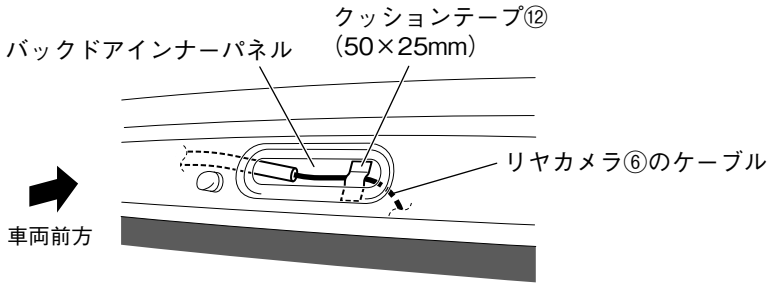
注記
バックドアハーネスグロメットの室内側にはグロメットインナーがあります。グロメットインナーを車体から一旦外し、バックドアハーネスグロメットにはめてから復元してください。

2. リヤカメラ⑥のケーブルを加工穴からバックドア側の車両グロメット穴まで通します。

注記
リヤカメラ⑥のケーブルがブラケット（リヤ）⑦に沿って引き回されていることを確認してください。（共通編「リヤカメラの角度調整および貼り付け」参照）

3. グロメット⑰を加工穴に取り付けます。

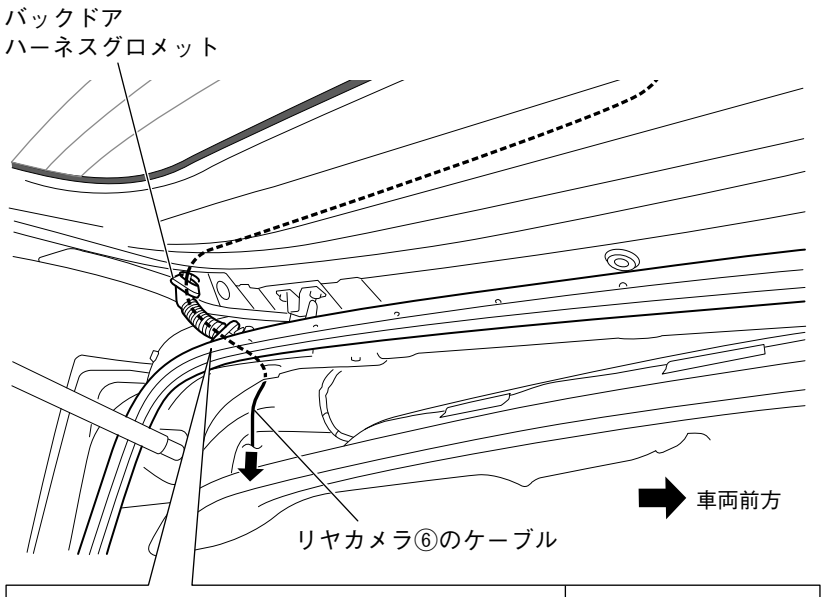
<ハイマウントストップランプ取付部>

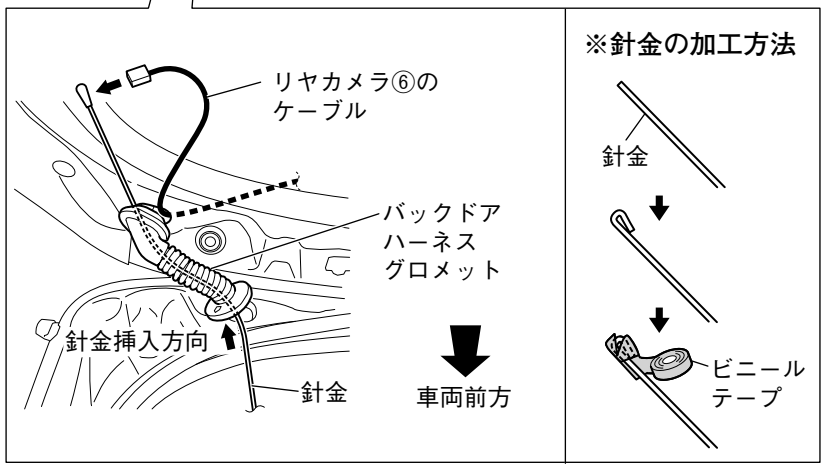


4. バックドア内のリヤカメラ⑥のケーブルをクッションテープ⑫でバックドアインナーパネルに固定します。

アドバイス
ハイマウントストップランプ取付部から作業を行ってください。

<バックドアハーネスグロメット部>





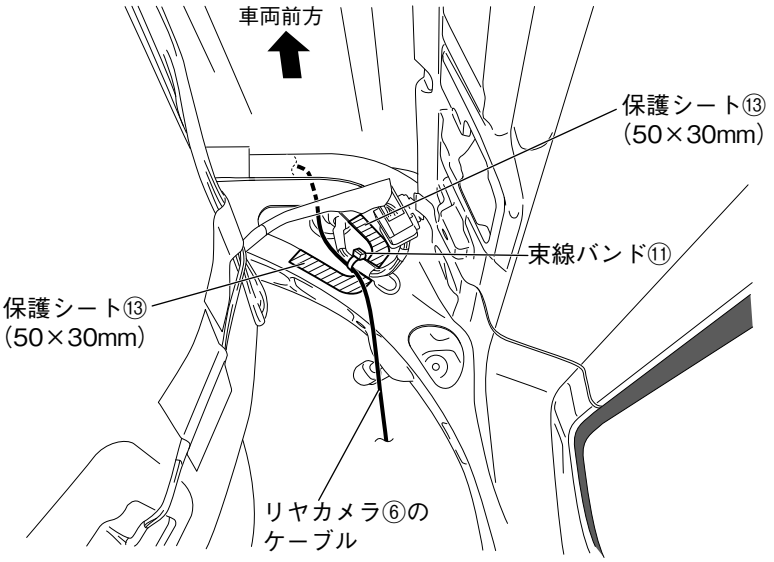
※針金の加工方法

5. 針金を使用してバックドアハーネスグロメット内にリヤカメラ⑥のケーブルを通し、室内側まで配線します。

注記
- バックドアハーネスおよびリヤカメラ⑥のケーブル破損防止のため、無理に引っ張ったりしないでください。
- リヤカメラ⑥のケーブルをバックドアハーネスグロメット内に通す際は、中性洗剤等を塗布してコネクター部がバックドアハーネスグロメット内で引っかからないようにしてください。その際、コネクターや端子に中性洗剤等がかからないようにしっかりテーピングしてください。

アドバイス
- 針金の先端を折り曲げ、ビニールテープでテーピングをしてください。
- 折り曲げた側の針金をバックドアハーネスグロメットの室内側からバックドア側に通してください。
- リヤカメラ⑥のケーブルのコネクターを針金にしっかりテーピングしてください。

＜車室内側バックドアハーネス部＞



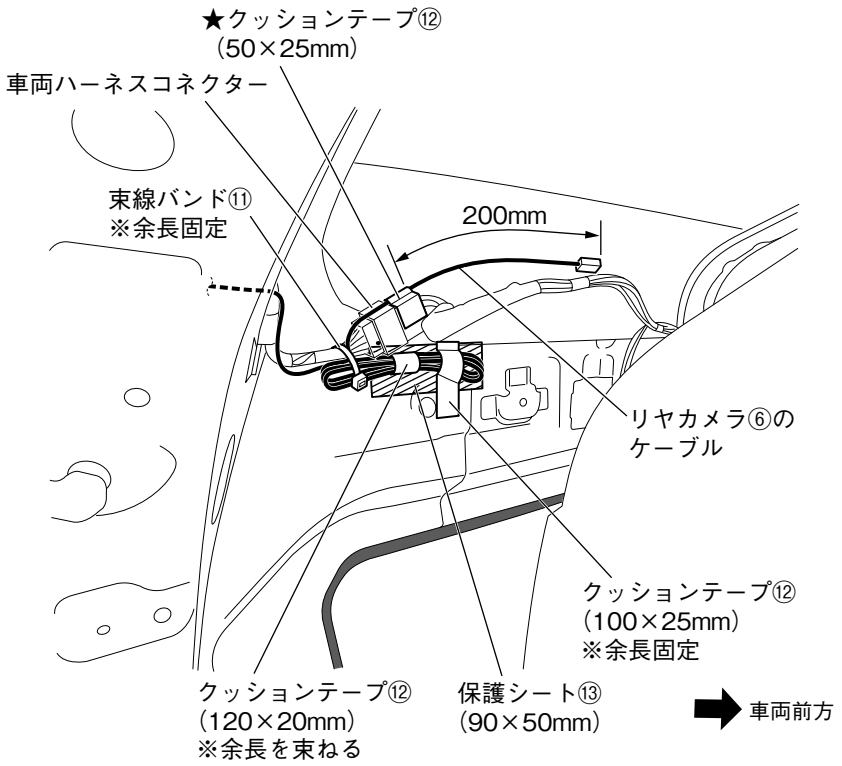
6. ルーフライニング裏のリヤカメラ⑥のケーブルを束線バンド⑪で車両ハーネスに固定します。

注 記

- **図示位置の板金エッジ部に保護シート⑬を貼り付けてください。**
- **保護シート⑬貼付面の汚れ等をクリーナー⑭できれいに拭き取ってください。汚れていると接着力が低下します。**
  また寒い時は温めてから作業を行ってください。

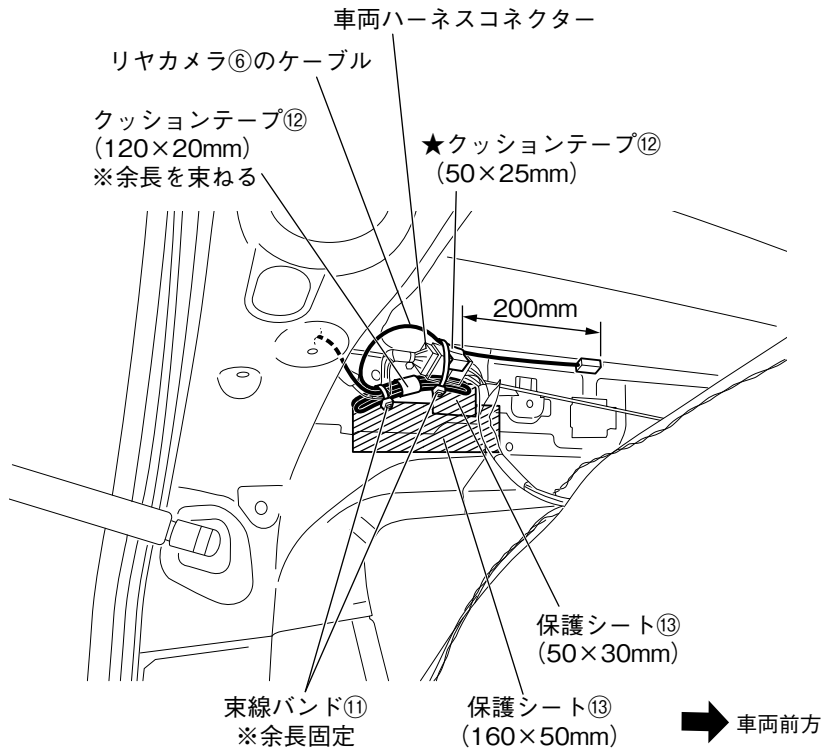
<ルーフ左後部ルーフライニング裏>

※ハイルーフ車の場合



<ルーフ左後部ルーフライニング裏>

※標準ルーフ車の場合



7. ルーフ左後部ルーフライニング裏のリヤカメラ⑥のケーブルをクッションテープ⑫で車両ハーネスコネクターに固定します。

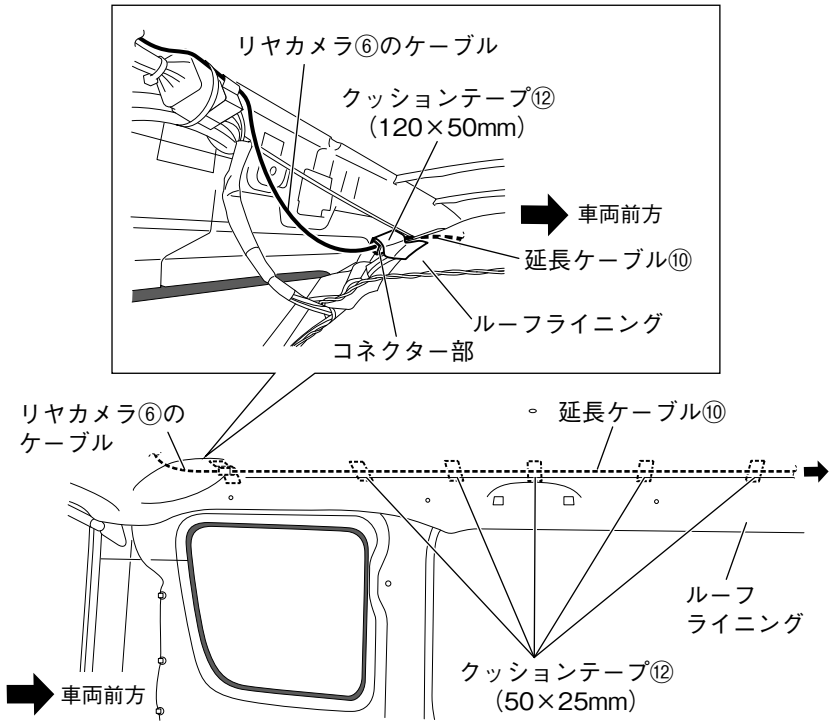
注 記

- 図示位置の板金エッジ部に保護シート⑬を貼り付けてください。
- 保護シート⑬貼付面の汚れ等をクリーナー⑭できれいに拭き取ってください。汚れていると接着力が低下します。
  また寒い時は温めてから作業を行ってください。
- ★部のクッションテープ⑫は、リヤカメラ⑥コネクター先端から車両ハーネスコネクターまでを図示寸法に合わせて固定してください。

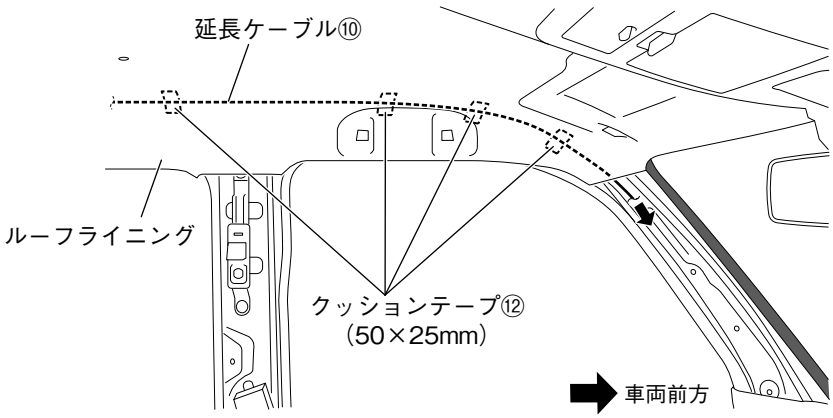
8. リヤカメラ⑥のケーブルの余長をクッションテープ⑫で束ねた後、束線バンド⑪もしくはクッションテープ⑫で固定します。

電源ケーブルと延長ケーブルの配線

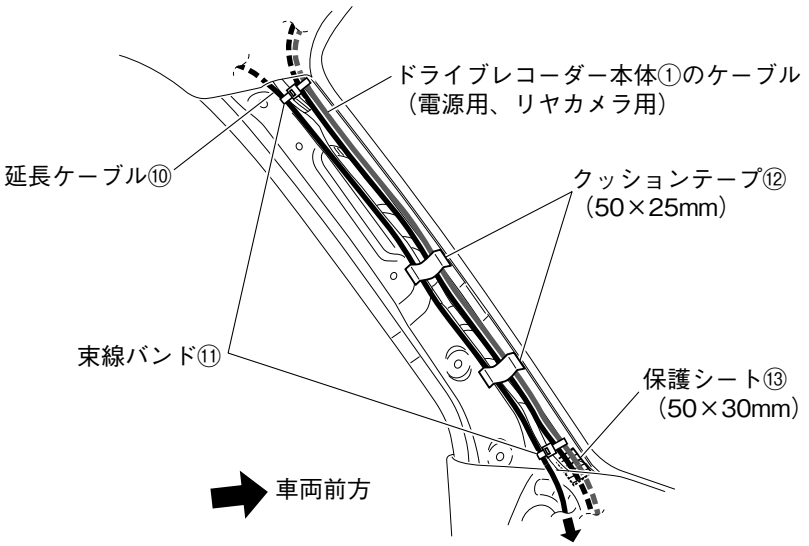
＜ルーフ左後側＞



＜ルーフ左前側＞



＜左側フロントピラー部＞



アドバイス

「フロントのみ」の場合は、ドライブレコーダー本体①のケーブル（リヤカメラ用）と延長ケーブル⑩の配線作業はありません。

1. 延長ケーブル⑩をリヤカメラ⑥のケーブルに接続し、コネクター部をクッションテープ⑫でルーフライニング裏側に固定します。
2. 延長ケーブル⑩をグローブボックス取付部まで、ルーフパネルとルーフライニングの間に配線し、クッションテープ⑫でルーフライニング裏側に固定します。

注 記

リヤカメラ⑥のケーブルや延長ケーブル⑩、クッションテープ⑫がルーフライニングのクリップ穴等をふさがないようにしてください。

3. 左側フロントピラー部のドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用、リヤカメラ用）と延長ケーブル⑩を束線バンド⑪とクッションテープ⑫で車両ハーネスに固定します。

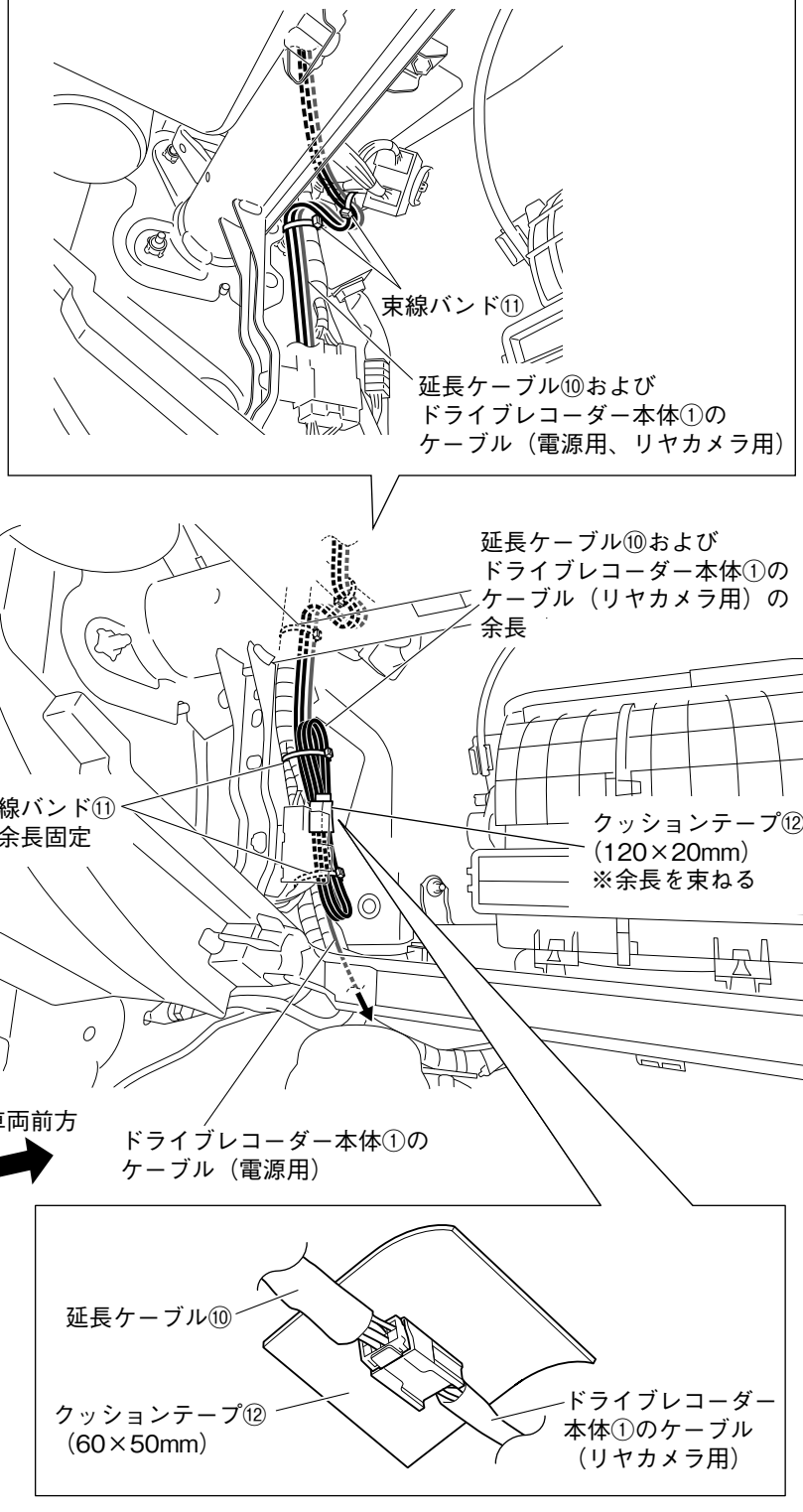
注 記

- **図示位置の板金エッジ部に保護シート⑬を貼り付けてください。**
- **保護シート⑬貼付面の汚れ等をクリーナー⑭できれいに拭き取ってください。汚れていると接着力が低下します。また寒い時は温めてから作業を行ってください。**
- **クッションテープ⑫でフロントピラートリムの固定クリップ穴やアシストグリップの取付部をふさがないでください。また、フロントピラートリムの当てリブ部と干渉しないようにしてください。**

アドバイス

左側フロントピラー部の固定はドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用、リヤカメラ用）も一緒に固定してください。

<グローブボックス取付部>



4. ドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用、リヤカメラ用）と延長ケーブル⑩を束線バンド⑪で車両ハーネスに固定します。
5. 延長ケーブル⑩をドライブレコーダー本体①のケーブル（リヤカメラ用）に接続します。
6. 接続したコネクター部にクッションテープ⑫を巻き付けます。
7. ドライブレコーダー本体①のケーブル（リヤカメラ用）と延長ケーブル⑩の余長をクッションテープ⑫で束ねた後、束線バンド⑪で車両ハーネスに固定します。

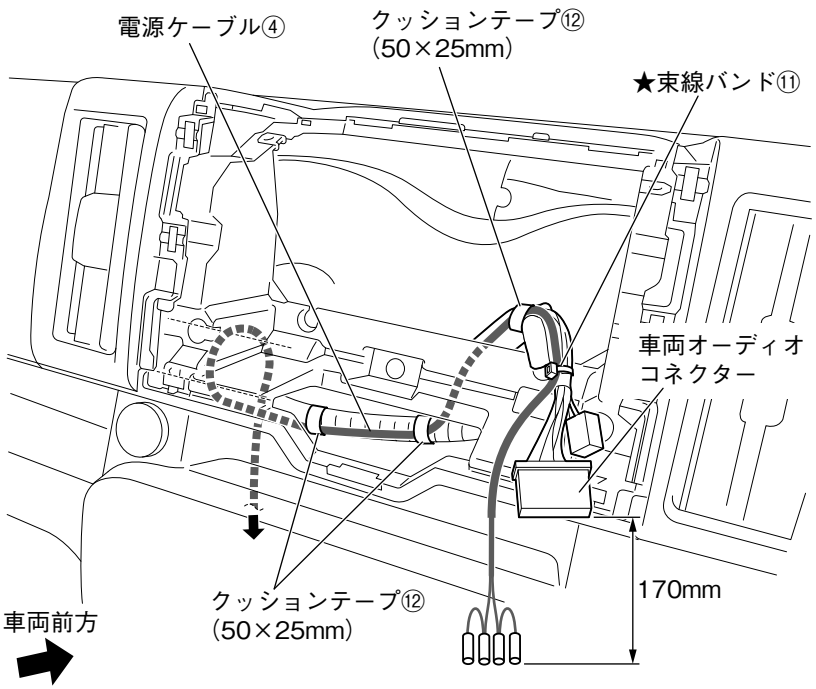
注記

ケーブルの余長はグローブボックスと干渉しないように固定してください。

アドバイス

ドライブレコーダー本体①のケーブル（リヤカメラ用）と延長ケーブル⑩の余長は一緒に束ねて固定してください。この時、ドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用）は一緒に束ねないでください。

<オーディオ開口部>



8. 電源ケーブル④をオーディオ開口部からグローブボックス取付部まで配線します。

アドバイス

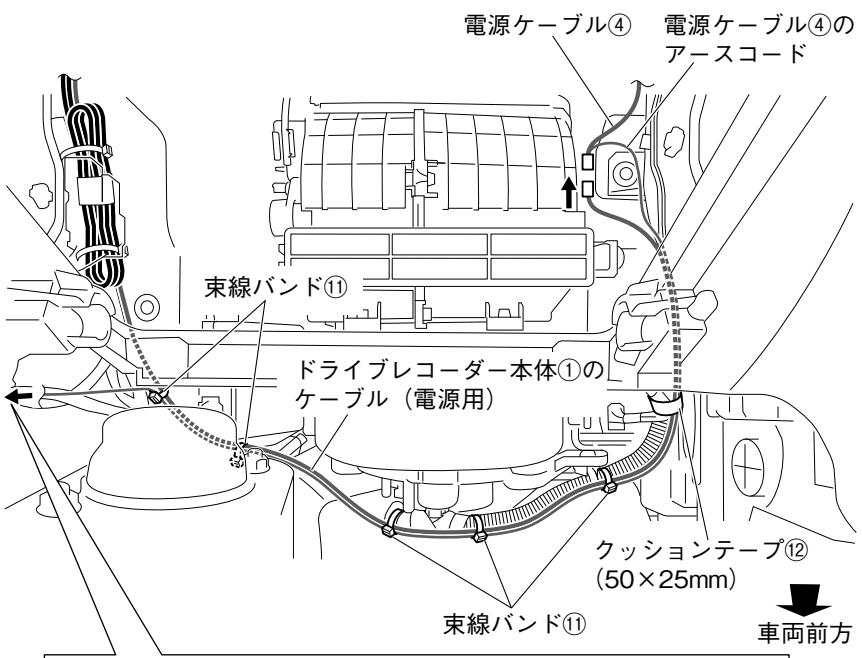
電源ケーブル④のアースコードは、グローブボックス取付部へ配線しますので、オーディオ開口部には配線しないでください。

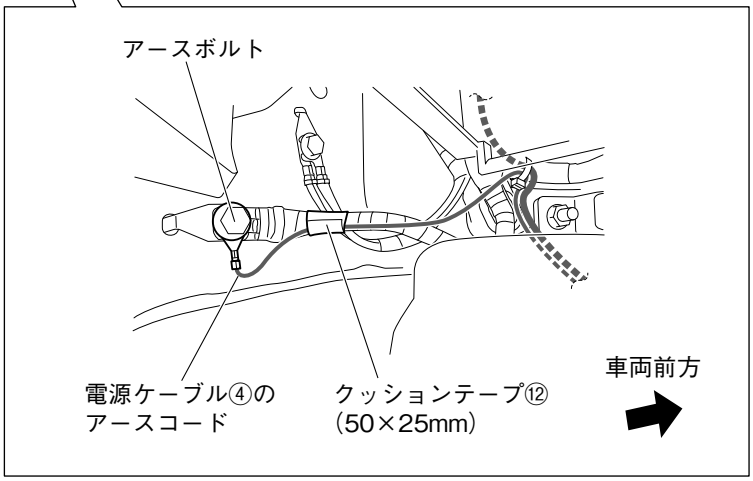
9. オーディオ開口部の電源ケーブル④を束線バンド⑪とクッションテープ⑫で車両ハーネスに固定します。

注 記

★部の束線バンド⑪は、電源ケーブル④のギボシ端子先端から車両オーディオコネクター先端までを図示寸法に合わせて固定してください。

<グローブボックス取付部>





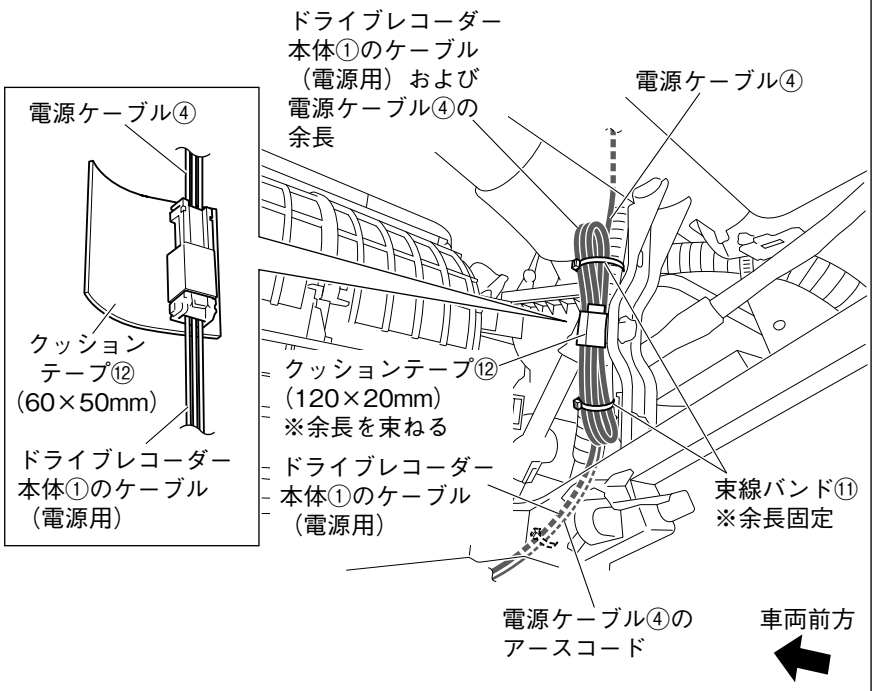
10.電源ケーブル④のアースコードをグローブボックス取付部左まで配線します。
11.電源ケーブル④のアースコードを図示位置のアースボルトまで配線し、共締めします。

注 記

- **アース端子のエッジ部分が車両配線と干渉しない向きで固定してください。**
- **アース端子は他のアース端子とカシメ部が重ならないように取り付けてください。**
- **アースボルトは規定トルク値で締め付けてください。**
- **アースが確実に取れていることをテスターで確認してください。**

12.電源ケーブル④のアースコードをクッションテープ⑫で車両ハーネスに固定します。
13.ドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用）と電源ケーブル④のアースコードを束線バンド⑪とクッションテープ⑫で車両ハーネスに固定します。

<グローブボックス取付部右>



14. ドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用）と電源ケーブル④を接続します。
15. 接続したコネクター部にクッションテープ⑫を巻き付けます。
16. ドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用）と電源ケーブル④の余長をクッションテープ⑫で束ねた後、束線バンド⑪で車両ハーネスに固定します。

注記

ケーブルの余長はグローブボックスと干渉しないように固定してください。

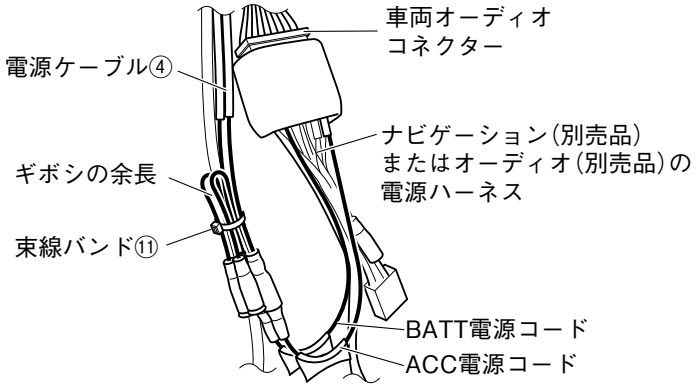
アドバイス

ドライブレコーダー本体①のケーブル（電源用）と電源ケーブル④の余長は一緒に束ねて固定してください。

電源ケーブル ACC 電源、バッテリー電源の接続

アドバイス
電源ハーネスの形状により電源の取り出し要領が異なります。取り付ける車両に応じて接続をしてください。

●電源ハーネスにギボシ端子がある場合

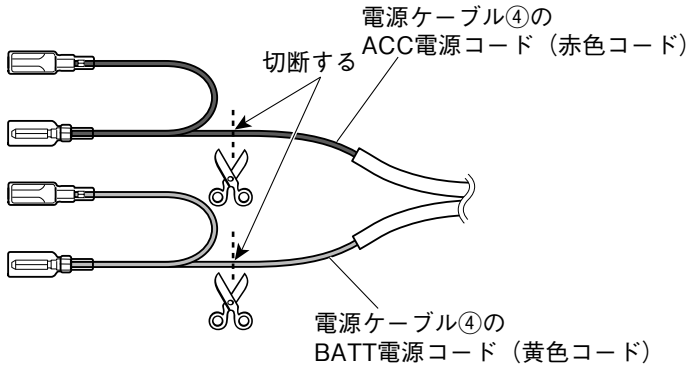


電源ケーブル④のギボシ端子をナビゲーション（別売品）またはオーディオ（別売品）の電源ハーネスに接続します。
ギボシ部の余長は、束線バンド⑪で束ねます。

⚠警告
接続しないギボシ端子は、共通編の「結線図　■用品ナビ・オーディオと共着し、電源ハーネスに ACC/ バッテリー電源のギボシ端子がある場合」を参照して、必ず絶縁テープを巻き付けてください。

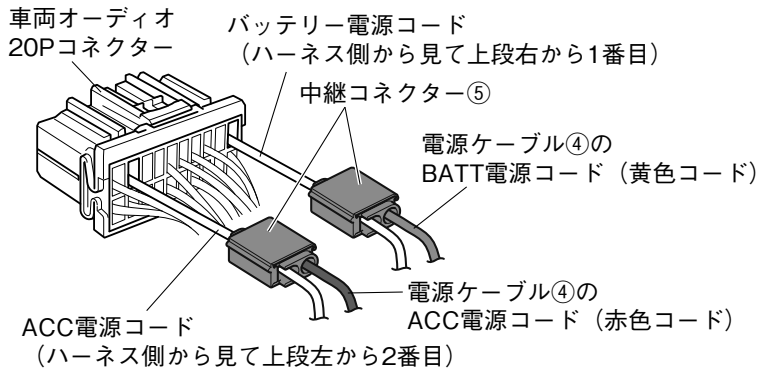
アドバイス
電源ケーブル④の接続は、共通編の「結線図」を参照して接続してください。

●電源ハーネスにギボシ端子がない場合

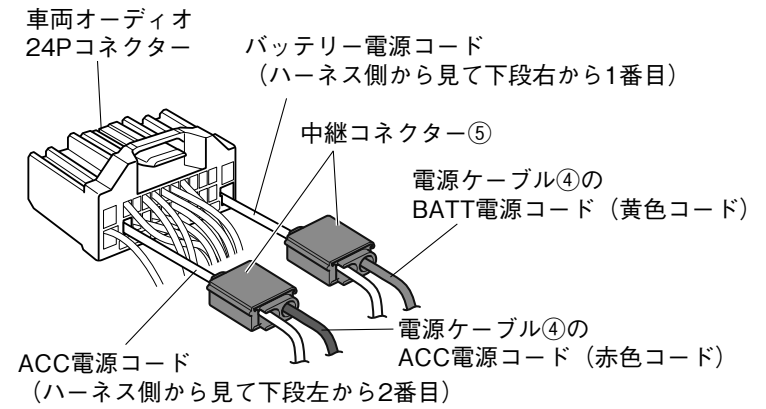


1. 電源ケーブル④の BATT 電源コード（黄色コード）および ACC 電源コード（赤色コード）先端のギボシ端子部を切断します。

＜車両オーディオコネクターが水色 20P の場合＞



＜車両オーディオコネクターが灰色 24P の場合＞



2. 車両オーディオコネクター（水色または灰色）のバッテリー電源コードに電源ケーブル④の BATT 電源コード（黄色コード）を中継コネクター⑤で接続します。
3. 車両オーディオコネクター（水色または灰色）の ACC 電源コードに電源ケーブル④の ACC 電源コード（赤色コード）を中継コネクター⑤で接続します。

アドバイス
中継コネクター⑤の接続方法は、共通編の「中継コネクターの使用方法」を参照してください。

■ 車両部品の復元

取り外しと逆の手順で取り付けます。

注 記
車両部品復元時に一時的に取り外した部品は、必ずサービスマニュアルの手順に沿って、用品取り付け前の状態に戻してください。（コネクター類の接続・締め付けトルク等）

⚠警告
取り付け作業完了後、車両および用品が正しく機能しているか動作確認してください。
車の電装品（ブレーキ、ライト、ホーン、ウインカー、ハザードなど）が正常に動作しない状態で使用すると、火災や交通事故の原因になります。

注 記
オートライト機能装備車の場合は、オートライト未作動状態での点検を行ってください。